

学校はみんなで作る!

自分は学校のためになにができるのか。

翅 檜 新聞



志 寛 錬

第7号

2019.6.14

第73代

伊敷中生徒会



生徒総会

5月8日(水)の午後、体育館で生徒総会が行われ、今年も活発な意見交換がなされました。

前半は本部や専門部の活動報告でした。それに対し、様々な質問や意見が出ました。

後半は全体協議でした。議題は「一人一役について」。現在の学校の現状として、一人一役の仕事や責任をもつてきていない人がいたり、仕事をしても完璧なものになっていない人がいたりしま



指名無し発表をする生徒(上) 熱心に意見を聞く生徒(左下) ソシオドラマで現状を伝える生徒会役員(右下)

す。また、自分の一人一役の仕事を理解していないという課題もあります。

このような今の現状を全校生徒で確認するために、初めにソシオドラマをしました。

そして、ソシオドラマで現状を確認した後、全校生徒での意見交換をしました。

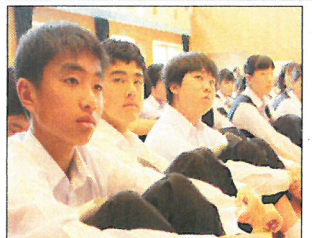
今年も活発な話し合いが行われましたが、その進行をしたのは、三年一組の平原美香さんと三年二組の平原美香さん。平原さんは「初めての議長としても緊張した。全体協議のときに、様々な意見が出てその意見をまとめるのが大変だった。

た。」と話していました。

また、一年生にとっては、初めての生徒総会となりまして、二、三年生が指名無し発表をする様子を見て、一年生も指名無し発表をする姿が見られました。

一年三組の田島遼人くんは「生徒総会に向けてたくさん準備を生徒がしていると感じ、すごいと思った。僕も来年は先輩方のように草々と発表できるようにしたい。」と次に向けての意気込みを話してくれました。

話し合いを活発に行うことができるのは伊敷中学校の良さです。これは普段の授業や生徒会活動の中で話し合いを繰り返しているからこそのことです。また、大事なことは話し合いの後、話し合ったことを次の行動へ生かすことができるかということです。



生徒総会后、みなさんの「一人一役」の取組はどのように変わったでしょうか。話し合いを話し合いで終わらせるのではなく、行動へつなげられるように一人一人の意識を高くもちたいと思います。(安藤綾悟)

みんなで過ごした楽しい一日

一日遠足

4月10日(金)、一日遠足がありました。一年生は平川動物公園、二年生は知覚特攻平和会館、三年生は高千穂牧場に行きました。

一年生は入学してすぐの遠足。また新しいクラスで慣れない中、今回の遠足で初めて話したり、仲良くなったたりした人が多くいると思います。

一年四組の堀切勇希さんは「遠足の中で遠く小学校出身の生徒とも触れ合いたいと思っていた。みんなと仲良く過ごすことができたと思う。」と話していました。



動物を見学する一年生



懸命に大縄を跳ぶ二年生

二年生は知覚特攻平和会館で平和について学びました。語り部さんの特攻隊についての話で、命の大切さについて改めて考えることができました。



バター作りを楽しむ三年生

今回の遠足は、みなさんにとってどのようなものだったでしょうか。学校の親睦を深めたり、学年の友達と仲良くなったたりすることは大切なことだと思います。これからもクラスや学年の人に自分から話しかけてみるなどいろいろな人と交流を深めていきましょう。(内村翔大・荒木陽稀)

生徒会の窓

読み書きが苦手な少年が「百人一首」でエースとして高校を全国ベスト8に導く!

そんな話を最近テレビで見ました。百人一首は文字だけが書かれた札をとり合う競技です。記憶力や瞬発力も必要で、「覺の格闘技」といわれるほど難しい競技でもあります。なぜ彼は読み書きが苦手なのに文字だらけの百人一首がうまくいったのでしょうか。

私は、彼が純粹に百人一首が「好き」だったからではないかと思っています。好きなものだったから、上手にできるようになるためにはどうすればいいのかということに工夫できたのです。実際、彼は札を覚えるために、札の文字を「川の流れ」に見立てたそうです。つまり、自分の苦手な理解した上で、どうすれば百人一首がうまくなるかを考えたから百人一首がうまくいったという事です。このことから、「好きだ」という気持ちで、「工夫」をする中で、物事の上達につながるということが言えると思います。

皆さんも、苦手だからと行動する前に諦めてしまっていることがありませんか。自分に興味があることや好きなことはとことん追求してみようという気持ちが大変だと思います。そのことを好きだという気持ちが大きければ大きいほど、目の前にある困難とも立ち向かえるのだと思います。(芹ヶ野愛梨)

迎えた新時代!!「令和」

5月1日、30年間続いた「平成」の時代に幕が下ろされ、新元号「令和」のもと、新たな時代がスタートしました。2007年ぶりに天皇陛下の生前退位という形で改元が行われたため、異例のお祝いムードでの幕開けとなった令和時代ですが、皆さんはこの「令和」という元号がどのようなに決まったのかご存知ですか。

「令和」は日本の歴史を初めて、中国の古典からではなく日本最古の歌集「万葉集」から引用された元号です。万葉集第五巻「梅花の歌32首并せて序」の中に、「時に、初春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を吹き、蘭は最後の香を香らす。」



という一節を基にして制定されました。この一節の意味は「折しも、初春正月の良月で、気はよき風は穏やかである。」つまり令和という時代が、平和と穏やかな時代となつてほしいという願いが込められているのです。

平成の30年間で、多くの自然災害には見舞われたものの、戦争が一度も起こることなく幕を閉じることができ、

「平成」の文字の通り「平和に成る」時代となりました。「令和」の新時代を、元号に込められた思いの通り、穏やかで平和な時代にできるかどうかは、これからこの新しい時代を生きていく私たち次第だと思います。

「令和」という新時代を迎えて三年一組のうるし山亮くんは「新しい時代を迎えても今まで通り文武両道に励み、部活でも勉強でも、良い結果を出せるように平日頃から取り組んでいきたいです。」と話していました。

まずはやるべき一つ二つのことに精一杯取り組み、私たちの力で、「令和」という新しい時代を素晴らしいものにしていきましょう。

(田島悠太郎)

特集 きれいな学校を極める！美化部からの気づき

一人一鉢周辺

今年度から新しく加わった掃除場所があります。「一人一鉢周辺」です。

毎週水曜日のグリーンタイム意外に花を管理する機会がなかったことから、毎日の掃除時間に一人一鉢を管理するようにしようということまでできた掃除場所です。これまでグリーンタイム以外では主事の先生が花を見てくださっていました。でも、自分たちの一人一鉢です。これからの主事の先



鉢に土を入れる一年生

生の力も借りなければならぬときもあると思います。自分たちで育てる「一人一鉢」という意識を今まではもてていなかったように感じています。

「一人一鉢周辺」の掃除の人たちが何をしているか



一人一鉢の作業

という、水やりや草ぬき、周辺の掃除です。

この新しい掃除場所のリーダーを務めている三年一組の吉津大晴くんは、「新しくできた掃除場所なので、分からないことも多くあります。毎日一人一鉢の状況

FACE 2・3年学年総務

今回のFACEでは、二、三年生の学年総務です。前期の間、それぞれの学年のまとめ役となる二人には、どのような学年にしたいかという思いがあるのでしようか。

(質問)

Q1 なせ総務になろうと思いましたか。

部活動紹介・発会式

4月15日(月)伊数中体育館にて部活動紹介式が行われました。二、三年生の部活動生がさまざまな方法で各部活動

Q2 どんな学年にしたいですか

Q3 学年の皆さんに一言お願いします。



2年生 学年総務 中島知希くん

A1 一年の時の総務の経験を生かして、二年生で緑学年を少しずつ良い方向に引っ張っていかうと思っただけです。

A2 笑顔あふれる、とても明るい学年。

A3 僕が一日中笑顔でいるので、みなさんも緑学年を笑顔あふれる学年にしていきましょう。



3年生 学年総務 新地遥人くん

A1 昨年も総務の仕事をしており、三年生でもこの学年を引っ張って

A2 こう思ったからです。元気で明るくメリハリのある学年。

A3 いつも明るく元気で何事にも全力で取り組みましょう。

それぞれの学年を学年をまとめてくれる一人ですが、代議員だけが動いても学年は成り立ちません。一人一人が学年のためにどんなことができるか考え、行動していきましょう。

(牟禮ころろ・池田華恋)

心・技・体を鍛える

の魅力を伝えていきました。部活によっては劇のようなものをしてたり、笑いを交えたりしながら、一年生だけでなく、二、三年生も楽しませてくれました。初めて部活動紹介を見ている一年生は、堂々とステージで発表する部活動生に憧れをもつ人も多かったようです。

そして、4月22日には部活動発会式も行われました。一年生は約一週間の体験期間を経て入部する部活を決めました。また、二、三年生は、発会式を迎え、新たな気持ちで部活動に入部していきま



自分たちの部を紹介する野球部

編集後記

4月30日、平成天皇が退位され、その翌日には、新しい令和の時代が始まりました。この令和の時代は私たちが社会に出て活躍していく時代となります。これからの時代をよりよく生きるため、今自分にできることは何かを考えて行動に移していきましょう。

今号が令和最初の習権新聞です。第73代習権新聞のコンセプトは「気付きを伝える」新聞。皆さんに気付きは伝えられているでしょうか。習権新聞の感想や意見を自分箱に入れて習権部員も新聞を創る励みになります。

(安藤栞悟)

(吉原里紅・吉住月那)